

複式 国語科 3・4年F組	戦後60年～作者の思い・願いに寄り添いながら～ 3年：あまんきみこ作『ちいちゃんのかげおくり』 4年：今西祐行作『一つの花』	西村充司
---------------------	--	------

1. 単元について

(1) 単元設定の理由

①作者の思い・願いに触れて

今夏、全国国語教育研究大会において、『ちいちゃんのかげおくり』の作者あまんきみこさんのお話を聞く機会を得た。「喜びも悲しみも、みんな刻んで年輪のように生きている。」とおっしゃるあまんさんは、幼いころを日本人ばかりの旧満州で過ごされた。そして、「家族や学校のある自分の場所は陽の当たる場所」としながら、「自分の影がよその人にあたって、よその人の日なたをうばってしまった。自分が楽しい場所にいるとき、誰かが陽の当たらない場所にいる。」を意識され、「自分が日なたを歩くとき、自分の影がどこにあるのか。」を今も常々考えておられるということであった。作品にも滲み出るそんなあまんさんのやさしいまなざしに触れながらも、「戦(いくさ)は起こしてはいけないもの。殺すから殺される。両方に理由ができてしまう。決して戦争の幕をおろしてはいけない。」という言葉、また、「力のないものが犠牲になりながら今の生命がある。」という思いには、あまんさんの作者としての強い意志を感じた。そんな思いをしづしづと語られながら、「自分の声でないものは書き上げられない。作品にならない。自分の中にあるものしか書けない。自分の中から湧き出るものだけしか書けない。」との付け加えは、まさにその強い意志の証であると感じた。

「このことを書きたい。表現がしっくりいくように何度も何度も書いたり、消したり」するあまんさんに、「血の出るような文字ではありませんか。」と話されたという今西祐行さんも、血の出るような文字で作品に生命を吹き込んだはずである。2004年末に亡くなられた今西さんの生きた声は、『一つの花』からも力強く聞こえてくる。

②「意味と内容」のひろがる学び

本単元の指導にあたっても、場面の移り変わりや登場人物の様子、また心情に関わった話し合いで大切にした。しかし、本教材での大切なねらいはその先にある。“戦争がもたらした人々の生活・生命の現実、そして戦時下を生きた人々の思い、とりわけ家族の願い”を感じ取り、また、作者の思いや願いについても考え寄り添っていくことで、今を、そして未来を生きる子どもたちには、戦争や平和に対しての自分自身の願いや思いを深めて欲しいと期待した。

本単元における「意味のひろがり」は、そんな作者の思いや願いにどれだけ寄り添え、自分自身の思いや願いをどれだけ強め、深められるかにあると考えた。また、「内容のひろがり」として、教材文やそれぞれの思いの語りに取り組んだ。これまでの音読とはひと味違い、作品そのものを自分のものとした上で、学び合ったことを生かしながら、場や相手意識をもち、そして何より平和への願いを強くもって、じっくりと作品世界を語り上げて欲しい。語り継ごうという意識をはつきりもって取り組めたとき、真の「意味と内容のひろがる学び」が創造できたといえる。

③「書くこと」でより生きる～「読むこと」「聞くこと・話すこと」・複式の学び～

「初発の感想」・一人学習での「書き込み」・授業の終わりでの「読みの深まり・ひろがり」ふりかえりカードなど、本単元でも、「書くこと」を授業の中に多く取り入れるよう計画した。

初発の感想は、自分たちの学習課題の設定に役立てた。自分たちの疑問であり、勉強していくことであるからこそ、子どもたちは主体的に学習に向かうことができる。

一人学習として「書き込み」を行っていることで、ある程度自信をもって子どもたちが積極的に発言できるし、要点を整理しながら伝えることもできる。また、同じ教材・同じ場面についての子どもたちのレディネスが整っていることで、比較して聞き易く、「付け足しで」「似ていて」「少し違って」などの関連した意見がつながり、複式の同時接指導においても、子どもたちの総合力によりかなり読みを深めることができると考えた。

「読みの深まり・ひろがり」ふりかえりカードには、その時間の学習での新たな自分の気づきや思い・考えに加え、心にひびいた友達の考え方、それを自分はどう取り入れたかも書く。少ない人数だからこそ一人一人の意見を大切にし合いたいし、こうした相互作用による自分自身の変容・高まりを少しでも意識できることが学ぶよろこびにつながると考えたからである。そしてもちろん、「まなざしの共鳴」がおこる学習文化の創造により良い影響をもたらすとも期待した。

(2) 单元目標

3年生	4年生
※叙述を基に、場面の移り変わりや情景、またちいちゃんの様子や気持ちの変化を想像しながら読むことができる。<読むこと ウ>	※叙述を基に、場面の移り変わりや情景、またゆみ子の両親の様子や思いを想像しながら読むことができる。<読むこと ウ>
※読み取った内容や作品に込められた作者の思いや願いについて自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方の良さを認め合うことができる。 <読むこと 工>	※読み取った内容や作品に込められた作者の思いや願いについて自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方の良さに気づき、自分に生かすことができる。 <読むこと 工>
※戦争や平和に対する自分の考えを語ったり、場面の様子が伝わるよう声に出して読み語つたりすることができる。<読むこと 力>	※戦争や平和に対する自分の考えを語ったり、場面の様子が伝わるよう声に出して読み語つたりすることができる。<読むこと 力>

(3) 単元計画 <全11時間+朝の読書タイム・複式集会 本時: 9/11+α>

3年生：『ちいちゃんのかげおくり』		4年生：『一つの花』
第1次 初発の感想を基に、学習課題について話し合い、今後の計画をたてる。（2時間）		
第2次 読みの中心課題に沿って一人読みを行う。（3時間）		
第3次 各自の一人読みを生かしながら、読みの中心課題に沿って場面ごとに深め合う。		
第1時	1場面で、いっしょにかけおくりをする様子に着目し、家族の思いについて読み深める。	1場面で、「一つだけ」に着目し、戦争の激しかった頃の生活について読み深める。
第2時	2場面で、空襲の夜の様子に着目し、ちいちゃんの思いや願いについて読み深める。	2場面で、「高い高いする」時の言動に着目し、お父さんの思いや願いについて読み深める。
第3時	3場面で、ひとりぼっちになった時の様子に着目し、ちいちゃんの思いや願いについて読み深める。	3場面前半で、プラットホームでの違いに着目し、ゆみ子たち家族の様子や心持ちについて読み深める。
第4時 本時	4場面で、一人でかけおりくをするちいちゃんと1場面との違いに着目し、ちいちゃんの様子や思い・願いについて読み深める。	3場面後半で、「一つの花」に関わる一連の言動に着目し、お父さんの思いや願いについて読み深める。
第5時	5場面で、4場面までとの違いに着目し、今までの子どもたちの生活や思いについて考える。	4場面で、これまでとの様子の違いに着目し、十年後のゆみ子の生活や思いについて考える。
第4次	作者の思いや願いに寄りそいながら、物語を複式集会でみんなに語り伝える。	
第1時	作品に込められた作者あまんきみこさんの思いや願いについて話し合う。	作品に込められた作者今西祐行さんの思いや願いについて話し合う。
読書タイムで練習、複式集会で発表。	作者あまんきみこさんの思いや願いをふまえながら、8人で役割分担し、「ちいちゃんのかげおくり」を読み語る。	作者今西祐行さんの思いや願いをふまえながら、8人で役割分担し、複式のみんなに「一つの花」を読み語る。

2. 単元の考察

(1) 3年生：本時の学びから

授業の前半、1場面と4場面を比較した。

実際に家族みんなでできた1場面のかげおくりと、ちいちゃんの幻想の中での4場面のかげおくり。一見分かり切ったことのように思われるその違いではあるが、右のふりかえりカードからは、比較しながらの話し合いの中で、初めはAH君の違いについての意見に疑問をもったが、OYさんの付け足した根拠に共鳴したことで納得し、4場面の状況がより明らかになったNYさんの変容が伺える。

その後、「こうして、小さな女の子の命が空に消えました。」についての学習へと展開していく。

今日は、一場面と四場面のがりあくびの
ちがいを免強しました。
その中で一番心にのこったのがんを一つし
うがします。
歩く人の「場面」はお父さんから、數々
数えたしたけれど四場面はお母さんから
お母さんよか、大好きとつと、さいしょ、私は
そのお母さんがお母さんだからへんたなよと由べて
お母さんだけれどゆりなちゃんのつけたし
がいがんがんがゆりました。
ゆりはせんそうで一人ぼっちになつた、
ちいちやんがもう一度やりたがうたが
がおくりといふけんです。

T :なぜ「小さな女の子」って書いてあるのかな?

YO:「小さな女の子」は、ちいちゃんのこと。他に名前とか出てないから。

KK:付け足しで、ちいちゃんのことだけど、名前出したら死んだのにかわいそうだから。

NY:他にも小さな女の子で死んだ子がいっぱいいるから、ちいちゃんだけにしぼっていいない。

YN: それに前に、ぶつかったりとかって書いていて、世界中で死んでいる子がいっぱいいるから。

YT:付け足して、ちいちゃんの他にお兄ちゃんとかもいるから。

RS:「小さな女の子の命が」は、みんなの言う通り他の子にも言えるかもしれないけど、「空に消えました」だから、ちいちゃりのことを書いていると分かる。

NY:似ていて「こうして」この語には女の手はちいぢや外へか出でないから、ちいぢやりと分かる。

NT: 既に、どうして、この記述は又の
YN: ここで勉強してほしにとを書いてある。

IN: ところで勉強してほしいことを書いてある。
YO: あまり読みこなしがみたいに学んでほい」とを書いてる?

「小さな女の子」については、「死んだのにかわいそう。」や「他人も死んだ子がいっぱいいるから」「作者あまんきみこさんが、学んでほしいことを書いているから。」など、視点の移り変わり同様、それまでのちいちゃんに同化した考え方から、もう少し引いた目、作者あるいは読者としての自分の目と、視点を広くもっての意見が出せた「意味と内容のひろがり」として評価できる。

「おまえさみこさん、作者やね。この前までは、誰の目で見て書いていた？」C:あいちゃんの目。

T : ここからはあまんきみこさんの目になつたのかな? ジャア、あまんきみこさんは何を学んでほしかったんだろう? C: 戦争をやめて。

T 戦争なあ、ちよつとこれ見て、NYちゃんの初登場の感想に書いてくれてたの。<掲示>

<食べ物も、やさしくしてくれる人も、楽しいかけおくりも、みんないくさのせいでうしなわれてしまつたちいちゃんは、いつも・・・>

このお話の中で、戦によって失われてしまつたものは何だろう？

KK:樂(さ)き YO:家族 NY:KK君とYOちゃんに付け足して、楽しい家族。

YN:付け足して、家族といふのは小生活・時間。 KK:お父さんとか。

NY:全部まとめて、喜びを出るまでの間。 YN:心の喜び。
YN:歩き出でて、家へ戻るまでの間。

KK:水・食べ物、 TT:非當時に食べる(ほ) 小(こ))

右、AH君のふりかえりカードは、普段なかなか授業に集中できず発言も少ないKK君のがんばりも評価しての内容である。仲間のまちがいなどには厳しさもあるAH君だが、素直にがんばりを認めてあげられるだけの仲間への成長したまなざしが伺える。また、新しい考え方として「たくさんの命」を挙げている点は、「小さな女の子の命」についての話し合いが「意味をひろげた」成果だと言えよう。

T 普段に戦によっても生わわれなかつたものは？

：逆に、戦によつて入れ替はれたものはない。
ヨウ：ちいぢめの命。 KK：最後はなくなるよ。

NY:おじいちゃんの家族を待つ続ける気持ち。 YN:似ていて、家族を待つ希望。

TT:あきらめない気持ち BS:家族を信じる気持ち NY:家族との思い出

KK:いやな気持ち VN:戦争があるからいやな気持ち 家族の大切さ

「戦によっても失われなかつたもの」については、ちいちゃんの様子についてこれまでの学びの成果が感じられるだけの、内容のある意見が出せた。とりわけ「読むこと」や「書くこと」においては課題の多いY〇さんが、初めは「ちいちゃんの命」としながらも、みんなのまなざしと同様にN Yさんの「家族を待ち続ける気持ち」に共鳴し、「家族の大切さ」との考えをもてた。その上で右の通り「ちいちゃんは家族が好きだから」「ちいちゃんは勇氣がある」との自分なりの意味づけをできたことは、この子にとっての「意味と内容」の大きなひろがりととらえができる

次の、最後の5場面についての学習は、右上のAH君のふりかえりカードからも、見通しは明るい。それを引用することで、戦争の悲劇という反省から、平和の尊さへと、作者の願いをそのまま自分の願いとして心のポケットにしまえる、そんな学びにできた。

今日、ぼくの作文がまだ
ついたので、びっくり
した。
心地のいい感じで、こゝかに
よって「しなやかれた」もので
「うへへ」との感動を「うへへ」と
ぼくのあたり、「考えは
たくさんの『命』です。

（中略）
わたくしは、自入力のかずくのたゞせつやア
（カナ）ちぢやくはがそくかすきだから
す。
あとねがいとがんしくをせぢつづけ
るからでモニニヤにひがむせした。
わたしは、ニニヤにがんでいた時じニハ
おもぎました。ういかくはゆうきがお
とおもぎました。

(2) 4年生：本時の学びから

書き込みノートの様子からも懸念していた通り、子どもたちが中心課題とした『あわてて帰ってきたお父さんの手には、一輪のコスモスの花がありました。「ゆみ、さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだよう。』』においては、コスモスの状況や性質を踏まえての発言はやはりなかなか出てこなかった。

そこでコスモスの様子についての発言を求めた際、コスモスを擬人化してその思いを考えてもらうとしたわけでもなかったが、発問が曖昧であったせいか話し合いがそこで続いてしまうことになった。ただ、「ひとりぼっちでも咲いている」といった趣旨の発言があり、それを生かして、コスモスの状況をも考えながらのお父さんの思いについて考えることへつなげることができた。その結果、「勇気をもって生きてほしい」というお父さんの願いを引き出すことができた。

KH君のふりかえりカードには、この時間の4年生の学びの様相が凝縮している。

【はじめは「コスモスの花をお父さんだと思ってほしいな。」だったけど、…(中略)…さみしさに負けることなく咲いているということと同じように、ゆみ子も一人ぼっちでみんなにみすてられても勇気をもってほしい。…】と、コスモスの花に込めたお父さんの思いについての、本時におけるこの子の変容がはっきりと示されている。さらに、【…前ゆいちゃんが「なんでおにぎりでは一つだけというのに、コスモスの花ならキャッキヤッと足をばたつかせたのかな。」といったのが今わかりました。おにぎりはゆみ子に気持ちをこめないであげているけど、(コスモスの)花は勇気があついま深いからそう思いました。…】と、仲間に共鳴していた前時までの疑問についても、自分なりの考えをもてたことが記されている。学習場面でのコスモスの花の「意味のひろがり」を、他の場面にも生かしょにぎりと比較して考えることができたことは「内容のひろがり」であり、それによりコスモスの花のさらなる「意味のひろがり」があったといえよう。

3. 成果と課題

いずれの学年も8人という少人数で同時間接の学習を効果的に進めるためには、子どもたち一人一人が自分の考えをしっかりともち、積極的に伝え合うことが不可欠である。また、一人一人の考えを大切にし、関連した意見がつながってこそ子どもたちは読みを深めることができる。

本時においても、仲間の意見の良さに目を向けそれを自分に取り込みながらさらに考え深め合う、いわば「まなざしの共鳴により意味と内容をひろげていく」子どもたちの主体的な学びの姿は、たくさんの参会者から高い評価を得た。これら学習の基盤を構築し、意識を高めるためには、「書き込みノート」や「読みの深まり・ひろがり」ふりかえりカードなど、継続的螺旋的な「書くこと」による効果が大きい。そんな中、子どもたち自身がその時間での自分の変容・高まりを意識できたり、それは次時以降の学ぶ意欲につながったと考える。また、指導者にとっても、一連の「書くこと」から、子どもたち一人一人の、また学習集団それぞれの、成長と課題を確実に評価することができた。その上で、実態にあった単元あるいは個人の目標をもつことができたし、単元構成や授業構想を練る際には、具体的な発間にまで至って指導に生かすことができた。

最後の場面の学習の後、作者の願いについて話し合った。「戦争によりたくさん的人が死んでしまう現実。だからこそその怖さ・恐ろしさ。そんな中で生きていくことの大変さ・つらさ。家族と別れるとの悲しさ・さびしさ。そして、今は平和だよ。」など、作者の主張として感じ取ったことがまず出された。その上で、「戦争をやめて。戦争をしないで。家族を大切にして。一日一日を大切にして。わざと死なないで。命を大切にして。今の平和を守っていいって。」など、戦後60年、作者の思い・願いに寄り添えたと感じる声が次々と子どもたちの心から飛び出した。それとともに、「作者はそのことを読む人に伝えたい。だからこうして書き残している。」とも。

子どもたちは、そんな願いを受けつき、それぞれの作品を複式集会で、1・2Fや5・6Fの仲間たちに読み語った。真剣に練習し、作者の願いを自分の心からの願いとして語り伝えられたことに、本単元における学びの「意味と内容」のひろがりが感じられた。

こうした語りや群読はビデオに撮って貯めている。これら学びの足跡は、DVDとして子どもたちの宝物となり、受けついだ思いや願いもそこに刻まれ残っていく。

今後は、それぞれの学年内にとどまらず、複式の特性を生かすためにも、両学年の学びのより効果的な相互作用、学年交流による「意味と内容」のひろがりを今以上に多く視野に入れた研究と実践に努めていきたい。